



浮世繪

浮世繪

潘力著

图书在版编目 (CIP) 数据

浮世绘/潘力著. —石家庄: 河北教育出版社,
2007.12

ISBN 978-7-5434-6586-2

I. 浮... II. 潘... III. 浮世绘—研究—日本
IV. J237

中国版本图书馆CIP数据核字 (2007) 第111474号



浮世绘

文字总监 郑一奇

责任编辑 刘 峥 杨 健

书籍设计  敬人设计工作室
吕敬人+马云洁

制 作 吴 鹏

出版发行 河北教育出版社
(石家庄市联盟路705号)

出 品 北京颂雅风文化艺术中心

制 版 北京图文天地制版印刷有限公司

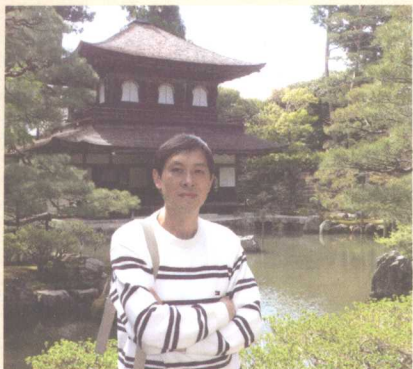
印 刷 北京今日风景印刷有限公司

开 本 889×1149 1/16 21.5印张

版 次 2007年12月第1版 第1次印刷

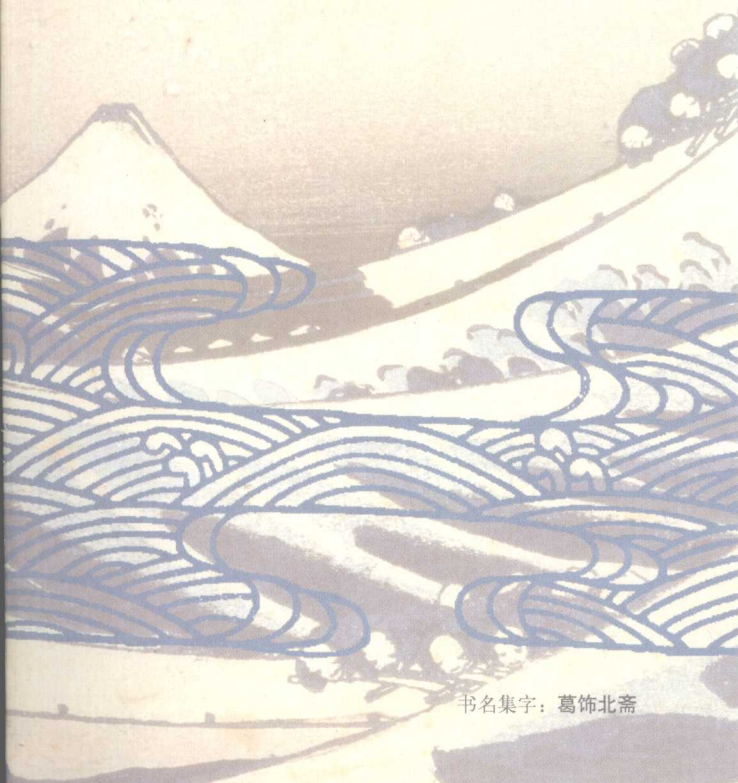
书 号 ISBN 978-7-5434-6586-2

定 价 158元



2006年4月于京都银阁寺

潘力，
中国人民大学副教授，博士。
曾任东京艺术大学客座研究员。
著有《日本美术：从现代到当代》。



书名集字：葛饰北斋

浮世繪

浮世繪

潘力著



本书获日本国际交流基金会出版资助

日本の文化、美術、そして
浮世絵の理解のために

日本美術に造詣の深い中国人美術史家潘力博士によって、中国で最初の本格的な浮世絵の本が刊行されることになった。その内容は、原始、古代から現代に至る日本美術の流れの中に浮世絵を正當に位置づけ、その歴史を生き生きと紹介するとともに、中国と西洋からの影響を指摘、さらに19世紀後半にヨーロッパに及ぼした甚大な影響、いわゆるジャポニスムの広がりについてまで説き及んでいる。挿入された多数の美術作品や写真によって、日本の美術のみならず歴史と社会、人々の美に対する感性の働き方、生活の暮らしぶりの一々にまで理解が深められる内容になっている。

国際浮世絵学会理事長
学習院大学教授

小林 忠

いうまでもなく浮世絵は、江戸時代(1603~1867)の中期以降、当時の武家政権(徳川幕府)が置かれていた江戸(現代の東京)において、町人階級が生み、育てた、庶民的な美術であった。その美術としての特色は、公家や武家などの貴族階級が良しとした伝統的で雅な表現とは違って、人間の真情を率直に伝えようとする革新的で俗な表現にこそあった。現実に変化しつつある社会の流行現象や、今生きている人々の欲望を、新しい技術や様式を駆使して表した浮世絵は、ありのままの日本を、しかもできるだけ美しく映し出した“時代の鏡”であった。著者の言を借りるならば、浮世絵は、「共時的な社会現象を基本的な題材にして、社会生活の断章を表現することによって、平凡な人生を活気づける記録の芸術」だったのである。

アジア大陸の東端からさらに離れて洋上に浮かぶ日本列島は、古来中国や朝鮮半島から高度な文化を受け入れ、それを咀嚼、吸収して、独自の歴史を形成してきた。浮世絵もそうした文化伝統に根を下ろしながら、中国明清代の美術や、ルネッサンス以降のヨーロッパ美術に刺激を受けつつ成長した美術であった。日本独自の個性に、中国や西洋の影響を加味した浮世絵は、島国の産物でありながらも国際的な性格、普遍性を獲得することが出来たのである。そのために浮世絵は、日本を代表する美術として欧米社会で認知されてきたが、本書によってようやく、かけがえのないアジアの隣人、中国の人々にも正しい理解と評価をいただくことが出来るようになった。このことは、浮世絵の研究に長い間たずさわってきた私にとって大きな喜びであり、感謝の念を深くするものである。

潘力博士の多年にわたる真摯なご研究がこうして立派に結実したことを心からお慶びし、これまでのご研鑽、ご労苦に対して深甚なる敬意を捧げるものである。

2007年5月18日

为了对日本文化、
美术
及浮世绘的理解
(译文)

对日本美术颇有造诣的美术史学者潘力博士撰著的中国第一部全面、深入研究浮世绘的著作出版了。该书在原始、古代直至现代的日本美术发展进程中，赋予浮世绘应有的历史地位，在生动展现浮世绘历史的同时，还指出了来自中国与西方的影响，并涉及19世纪后期日本美术在西方广泛流行并产生重大影响的“日本主义”。配置的大量美术作品与摄影图片，使本书内容不仅限于日本美术，还有助于深入理解日本的历史与社会，以及人们对于美的感性追求与创造，乃至日常生活的具体细节。

国际浮世绘学会理事长
学习院大学教授
小林 忠

浮世绘是江户时代(1603~1867)中期之后，由当时的武家政权(德川幕府)所在地江户(今东京)的市民阶级孕育的大众美术。浮世绘作为美术的特色在于，不同于朝廷与武家等贵族阶级所崇尚的传统雅致风格，率直地传达了人间真情和具有革新意义的民俗表现。浮世绘描绘不断变化的现实社会的流行时尚与生活在当时的人们的欲望，并运用新的技法与样式，可谓美好地反映鲜活日本的“时代之镜”。若借用本书作者的话说，浮世绘就是“以当时的社会万象为基本题材，通过表现社会生活的各种现象，生动记录平凡人生的艺术”。

游离于亚洲东部大陆、漂浮在海洋上的日本列岛，自古以来从中国和朝鲜半岛接受高度发达的文化，消化吸收并形成自己的历史。浮世绘正是植根于这样的文化传统，并在中国明清美术与文艺复兴之后欧洲美术的影响下成长起来的美术。在日本的独特个性之上糅合了中国与西洋影响的浮世绘，在作为岛国产物的同时，也由此具有了国际性格与普遍性。因此，浮世绘已经作为代表日本的美术得到了欧美社会的认知。今天，随着本书的出版，作为尊贵的亚洲邻居的中国朋友们，也终于能够对浮世绘作出准确的理解与评价。对此，作为长期从事浮世绘研究的我感到极大的喜悦，并深怀感谢的心情。

我对潘力博士通过多年来真挚的研究所取得的丰硕成果表示由衷祝贺！并对他至今为止的钻研和所付出的辛劳致以深切的敬意！

2007年5月18日

刊行に寄せて
潘力先生の
新著の

潘力先生は優れた美術家であるばかりでなく、中国における日本美術研究の第一人者でもいらっしゃいます。きわめて流暢な日本語を話され、文章も見事で、お会いするたびに芸術に対する熱意と、ご努力には頭が下がります。このたび潘力先生が浮世絵に関する書物を著されると伺い、たいへん嬉しく思います。

ジャポニズム学会理事長
日本女子大学教授

馬淵明子

よく知られているように、日本は千数百年もの長い間、中国大陸から多大な文化的影響を受けてきました。国交が閉ざされがちになると、日本は独自の様式を發展させ、また交流の太いパイプが復活すると中国から多くの文化芸術を取り込む、といったことを繰り返してきました。ですから、日本における中国美術の研究者のなかには、日本独自のものはなく、すべてが中国に源をもつ、という人さえいます。しかしそれは正しくありません。世界のどの地域の文化芸術を見ても、多かれ少なかれ外国から刺激は受けても、やはりその国の風土や文化伝統にあった改変を行ってゆくのです。

しかし残念ながら、日本の美術を詳細に研究しようと考えた中国の研究者はきわめて少なく、また日本の美術と西欧の近代美術の関わりを示す「ジャポニズム」に対する関心は皆無にちかいものだった、と聞いています。今回この潘力先生のご著書は、そうした点で、中国の方たちに新しい情報と今までになかった視点を導入してくれることでしょう。

過去の戦争においては、日本は多大な過ちを犯しました。政府や首都の知事がどんな態度を取ったとしても、私の周辺の人たちは、日本がその過ちを取るに足らないように見せかけようとしたり、重大な事件をなかったかのようにすることがいかに愚かしく情けないことであるかと思い、心を痛めています。そしてそのように感じる日本人が決して少ない数でないことも信じていただきたいと思います。真の交流は互いの尊敬と歩み寄ろうとする努力によって築かれます。過去の出来事を正確に認識し、謝罪し、そこから互いの文化を研究してゆくことが必要です。

この潘力先生のご著書は、そうした理解と交流を生む、重要なきっかけになってくれるでしょう。そして日本に来られる方々が、美しい自然や先端のテクノロジーばかりでなく、美術館や社寺に足を運んで美術を鑑賞し、日本人が中国から何を学ぼうとしたか、それをそのように「日本化」していったか、それはどんなもの見方に支えられているのか、考え知っていただきたいと心から願います。日本における中国美術の研究は長い歴史がありますが、中国における日本美術の研究が今後いっそう盛んになって、互いの理解が深まり、学びあう関係になったほしいと心から希望いたします。

2007年3月28日

潘力先生新著出版
寄语（译文）

潘力先生不仅是优秀的美术家，也是中国出色的日本美术研究者。他能说十分流利的日语，文章也写得很好，见面时我总是为他对艺术的热情及努力所感动。我为潘力先生关于浮世绘的著作出版由衷地感到高兴。

“日本主义”学会理事长
日本女子大学教授
马渊明子

众所周知，日本在千百年的漫长岁月里，受到来自中国大陆文化的极大影响。每当闭关锁国之际，日本独自的民族样式便得以发展，再次打开交流渠道时，就又一次大量汲

取中国的文化艺术，如此循环往复。因此，日本的中国美术研究者中，有人认为日本没有自己的文化，一切都源自中国。但我认为这是不对的。就世界上任何地域的文化艺术而言，无论或多或少地受到来自外国的影响，依然还是基于本国风土和文化传统的改变而发展的。

但令人遗憾的是，深入研究日本美术的中国学者非常少；同时，据我所知，对体现日本美术与西方近现代美术关系的“日本主义”也几乎没有关注。我相信，潘力先生的这部著作将就此给中国读者带去新的资讯和新的视点。

在过去的战争中，日本犯下了极大的罪过。无论政府和首都的领导人对此采取什么态度，我和周围的朋友们都认为日本虚有其表的态度不足以承担所犯下的罪行，企图轻描淡写的做法是非常愚蠢和可耻的。我对此感到痛心。请相信和我有着相同感受的日本人绝不是少数。真正的交流是建立在相互尊重和理解的努力之上的。正确认识过去并谢罪，由此展开相互的文化研究是必要的。

潘力先生的著作将为这样的理解与交流提供重要契机。因此，来到日本的中国朋友们，除了关注优美的自然景色和先进的科学技术之外，也请到美术馆和神社寺院来欣赏美术，看看日本人究竟从中国学到了什么，又是如何将这些“日本化”了的，并思考这种变化都是基于什么样的思维方式。这是我发自内心的愿望。日本对中国美术的研究已有很长的历史，我衷心希望中国今后进一步加强对日本美术的研究，深化相互理解，形成互相学习的友好关系。

2007年3月28日

目录

012_013 序

017_026 导言

027_048 第一章 日本美术溯源

- 一、绘画样式的流变..... 028
 - 大和绘缘起 029 大和绘样式 029
 - 《源氏物语绘卷》031 金碧辉煌的障屏画 034
- 二、禅宗精神..... 035
 - “空寂”与“闲寂”036 空间意识 037
 - 水墨余韵 038
- 三、“琳派”风格..... 041
 - 工艺性特征 041 俵屋宗达 042
 - 尾形光琳 045

049_074 第二章 浮世之绘

- 一、浮世绘的社会文化根源..... 050
 - 平民社会的文化胎动 051 浮世绘的前奏——风俗画 052
 - 从风俗画到宽文美人图 056 歌舞伎的诞生 060
 - 江户市民文化的策源地——吉原 062
- 二、浮世绘版画的始创..... 066
 - 从佛教版画到木版插图 066 明代版画的影响 066
 - 新兴的江户出版业 068 菱川师宣始创浮世绘版画 070

075_144 第三章 美人画

- 一、早期美人画..... 076
 - 杉村治兵卫 077 鸟居派始祖鸟居清信 078
 - 怀月堂安度派 079 宫川长春 081
 - 浮世绘技术转换期的奥村政信 081 西村重长与石川丰信 083
 - 京都画师西川祐信 084

二、“青春浮世绘师”铃木春信	087
“锦绘”的发明	087
和歌意境	092
婉约雅致《坐铺八景》	088
借用典故的“见立绘”	093
三、美人画的新样式	095
矶田湖龙斋	095
北尾派始祖北尾重政	097
“清长美人”	101
歌川派始祖歌川丰春	096
胜川派始祖胜川春章	099
四、“青楼画家”喜多川歌麿	106
知遇出版商葛屋重三郎	106
吉原之花	108
“青楼画家”	114
作为文艺沙龙的吉原	107
美人画的顶峰——歌麿“大首绘”	110
萧萧晚境	120
五、后期美人画	124
古趣盎然的鸟文斋荣之	124
歌川派的兴起	129
唯美世界	131
菊川英山与溪斋英泉	127
歌川国贞的“颓废美人”	129
六、春画	132
开放的性观念	132
“媚惑”与“神威”之美	142
浮世春梦	134

一、从鸟居派到“似颜绘”	146
源远流长的鸟居家族	146
“似颜绘”与胜川派	150
二、“鬼才”东洲斋写乐	154
空前绝后的役者大首绘	155
出版商的主导	159
身世之谜	163
渐行渐远的其他系列	158
透视浮华人生	162
三、人脉绵延歌川派	164
“万众明星”歌川丰国	164
“武者国芳”	167
“超人”国政	165
相扑绘	172

一、西方美术对日本的影响	174
南蛮屏风绘 174	平贺源内与司马江汉 176
二、明清美术对日本的影响	178
洋画师带来的透视与明暗 178	苏州桃花坞木版年画 179
沈南蘋的“宋元遗意” 181	
三、舶来之作——“浮绘”	182
作为背景的风景 182	空间的表现 183
四、“画狂人”北斋	186
师出胜川名门 186	包罗万象《北斋漫画》 188
波澜壮阔《富岳三十六景》 189	万般风情“名所绘” 192
“但愿能有百年寿” 197	
五、“乡愁广重”	199
风景画师的出发点 199	《东海道五十三次》 200
《木曾海道六十九次》 206	宁静致远“雪月花” 208
乱世愁情 209	“绳纹式”与“弥生式”的山水情怀 212
六、花鸟画	214
豪华典雅的狂歌绘本 214	葛饰北斋与歌川广重 218
七、走向现代的浮世绘版画	220
“明治的写乐”丰原国周 221	月冈芳年 221
小林清亲的“光线画” 222	

一、浮世绘版画的制作	224
原稿“版下”的绘制 225	雕版 225
拓印 228	浮世绘版画拓印图解 230
二、技法与材料	232
形式演变 232	拓印技法 236
颜料 240	纸张 241
三、浮世绘版画的文化内涵	242
独特的平民艺术 242	强烈的生命意识 244
崇尚自然的文化心理 246	
四、浮世绘版画的样式特征	248
非对称性构图 249	抽象的装饰性 251
明亮的色彩 254	

257_284	第七章 席卷欧洲的日本主义 	
	一、日本美术“飘洋过海”	260
	早期的瓷器与漆器出口 260	来自西方的视线 261
	作为商业贸易的输出 263	西方出版物对日本美术的介绍 266
	二、从“日本趣味”到“日本主义”	269
	安格尔“浪漫的美感” 269	布拉克蒙与“日本酒之会” 270
	惠斯勒 271	埃内斯特·西诺与塞穆尔·宾 272
	“日本主义”的形成 273	
	三、来自“日本主义”的冲击	275
	日本美术中的自然主义 275	平面化的装饰性 278
	四、“艺术的日本”	281
	“大艺术”与“小艺术” 281	塞穆尔·宾与“新艺术” 282
285_312	第八章 浮世绘对印象派的影响 	
	一、色与形的革命	287
	马奈 288	莫奈 291
	德加 295	劳特累克 297
	二、“回到自然中去”	300
	凡·高 300	高更 307
313_325	结语 	
326_339	附录 	
	浮世绘年表	326
	江户时代年号一览	329
	“日本主义”年表	330
	图版索引	333
	浮世绘画师索引	338
340_341	主要参考书目 	
342_343	后记 	

序 |

中国艺术研究院研究员
中国美术家协会理事

王 镛

浮世绘是日本江户时代（1603～1867）流行的风俗画，分为手绘和木刻版画，题材以江户市井生活和风景为主。浮世绘版画吸收了西方写实绘画的立体透视画法，但整体仍保留着日本传统绘画的平面装饰特色。19世纪后半叶，浮世绘版画通过国际贸易流传到欧洲，逐渐兴起了“日本主义”（Japonisme）。1884年法国作家龚古尔在小说《宝贝》的序言中提到：“日本主义”是19世纪欧洲最重要的美学运动之一。浮世绘版画对印象派和后印象派绘画背离西方学院派传统起到了催化剂的作用。马奈、莫奈、德加、毕沙罗、惠斯勒等画家都热心收藏或借鉴日本版画。凡·高也曾以油画临摹过《花魁》、《雨中大桥》和《开花的梅树》等日本版画，并经常在自己的油画背景中点缀日本版画的图像，至死都在追寻他的“日本之梦”。英国学者苏立文在《东西方艺术的会合》（1989）中指出：“在凡·高的晚期作品中，线条和色彩的张力构成了均衡调和的美，正是来自葛饰北斋和安藤广重的杰作的启示。”

对于日本浮世绘版画及其引发的这段东西方艺术交流史上双向互动的佳话，中国读者虽然并不陌生，但也不太熟悉，在中国美术界至今缺乏全面系统的介绍和研究。潘力的《浮世绘》，是中国学者撰写的第一部全面系统介绍和研究日本浮世绘版画的专著。潘力曾在东京艺术大学留学，研究日本当代美术，出版了一部《日本美术：从现代到当代》（河北教育出版社2000年版）。后来他在徐庆平教授指导下攻读博士学位，研究日本浮世绘版画。2005年他又到日本东京等地实地考察，搜集了大量第一手资料。从日本当代艺术转向浮世绘版画研究，是一种回溯式的艺术史研究。为此，他把浮世绘的文化源头一直追溯到日本原生文明、大

和绘风俗画以至中国画和西洋画的影响，把浮世绘的来龙去脉梳理得异常清晰。他重点研究了浮世绘的社会文化根源、题材样式特征和版画制作技法，对浮世绘美人画、役者绘、风景画的代表画家的综述和分析的详尽程度，远远超过了国内以往的相关出版物。他对于浮世绘版画对欧洲印象派和后印象派绘画的巨大影响，不仅进行了系统的梳理，而且展开了深入的思考。这对我们从事东西方艺术交流和中日美术比较研究颇具参考价值。大量精美的图片，特别是作者在日本实地拍摄的日本文化和江户民俗资料，也为本书增色不少。

20世纪初，日本学者冈仓天心在《东方的理想》中提出过“亚洲是一体”的名言。21世纪初，中国、日本、印度等亚洲国家临到了东方文艺复兴的伟大时代。潘力的著作《浮世绘》的出版适逢其时，无疑有助于增强我们东方人对亚洲本土文化传统精神在当代的创造潜力的自信。

2007年6月18日



富岳三十六景
神奈川沖
浪裏

舟江流下

葛饰北斋 富岳三十六景 神奈川冲浪

1831年(天保二年)前后 大版锦绘 24.3×37.2cm

东京国立博物馆藏

试读结束 需要全本请在线购买：www.ertongbook.com